

回答者 寄宿舍指導員 14名 養護教諭 2名 栄養教諭 1名 介護員 1名 実習助手 6名 教諭 32名 計 56名

1

「学校としての方向性を管理職にゆだねる」 1

○管理職の考えでよい

「50分に変更」 23

理由

○50分がよい。

○今後のことを考え、臨時休校になったことを考えると変更した方がよい。

○本来50分であるなら50分授業がよいと思います。

◎基本が50分なら50分で良いと思う。(バス通学の生徒の通学時間が大丈夫か?)

○卒業後、長時間働くことを考えると、50分の設定がよい。なぜ45分授業で行っているのか知りたい。

◎職員の勤務時間の変更が可能なら、本来50分ならその方がよい。

○学習する幅が広がり、余裕を持った授業作りができる(時間変更が可能なら。寄宿舍との連携。)

○50分は高校でも普通だと思います。(1時間目の開始時間を早める。)

○前任校で45分授業だったときインフルエンザで学校閉鎖になり時数の補填に苦労したことがあり50分の方が良い。(休み時間を無くす。1校時を35分(0,7コマ)とするなど対応し、給食と金曜日の下校時間をなるべく変わらないようにする。)

○本来50分なら50分にして良い。(今まで45分に慣れている在校生に対してどのように変更を伝えるかが心配。全校集会やHRで説明する機会が必要。)

○50分が正規ならば、50分に変えたほうがよい。(必要に応じて生徒に説明。)

○本来の形(50分)であることが望ましい(休み時間が無くなる、移動時間やトイレ時間の確保が難しくなる。)

○中学から進学してきて、授業時間が減るのは違和感を感じる。

◎寄宿舍の日課変更など対応が可能ならば50分。

○50分にしていこう。(45分でも休み時間が無く早めに終わる現状。やりたいことが限られてしまう。)

○50分対応にしてもらいたい。(卒業後の働く時間を考えると必要なこと。寄宿舍、通学生のバス時間で可能な範囲で対応するのがよい。)

○生徒に合わせた時間設定がなされれば50分にしても問題はないかと思います。また、先に変更を行った学校の状況を知り参考にできればよいかと考えます。(放課後及び余暇活動に影響してくるのではないのでしょうか。また、新入生からでなく在校生も同時に変更されるのであれば突然日課が変わるので戸惑う事もあると思います。)

○生徒への大きな影響はないと考えます。生徒への教育的効果が望めるものであれば、50分に変更しても良いと思います。

○臨時休校になった場合(仮定)ですので、当然、長期休業をつぶして授業をしなければならなくなると思います(デメリット)。上記のようなデメリットを改善するために、運用時間を50分にすると思います。会議等の開始時刻が遅くなりますが、覚悟の上です。

○50分にし、登校が早まったり、下校が遅くなってもいいので、授業合間のせめてもの5分程度の準

備時間があるとよい。(ただし、作業学習の授業などは連続で行うなどにする) 休憩時間が確保できるかどうか。

○50分単位にすべき。教育課程編成届けの計算がややこしくなる。

○臨時休校になった場合の対応(3年生が特に心配なため50分に。)

○50分へ(下回るのはよくない。)

「45～50分」6

理由

△授業でできること、教えられることが増える。(1集中力を持続させ要点をまとめて教える技術が必要。2帰省帰舎への影響が出る。3休み時間の確保。 が解消されるなら50分にしても良い。)

△2・3時間続きの授業となると生徒の集中力が続かなくなる(授業作りの工夫や集中力が続くような言葉がけ等の支援が必要。)

△7時間目の対応。他校のように自主的な活動に位置づける、放課後の活動になり委員会活動が衰退していくと思う。(評価をするということであれば、今まで通り時間割に組み込めたら組み込む。)

△生徒達の現状に合わせた設定ができればよい。

△中学校と同じように過ごせるが、職員の勤務時間にいろいろ不具合が出る。

△生徒の実態に合わせた時間設定がよい。

「今まで通り45分」12

理由

□現状で特に問題ない(45分)×3

□50分になると長く感じ、始めから生徒のスイッチが入らない。

□50分が正規ではあるが、授業は45分の方がやりやすい。

□45分でも集中できていなさそうなのに5分延ばす意味はあるのか?

□生徒の集中力を考えると45分がよい。

□45分は生徒の集中時間には適当。

□授業を行う上で、45分という時間は特に問題ないと考えます。しかし、授業の間に空き時間がなく生徒にメリハリの指導を行う場面が少ないと考えます。

□生徒に時間を意識させ、早め早めの行動で時間を確保する意識が求められる。現行の運用で特に問題はないが、休み時間を確保させたい。(そのためには、始業時間を守る、時間内に授業を終えるなど教師が見本を見せる必要がある。また、できるなら更衣の時間を確保して授業を終わらせたい。(特に午前中の作業の後など。)

□生徒の集中力や休み時間の確保を考えたら、現状維持でよいと思います。

□45分で良い(休み時間、トイレ休憩を設ける、集中が続くのは15。)

「記入なし」14

「今まで通り」 1

理由

◎生活に必要な最低限度の基礎的なことは教える必要がある。(これまで通りでよい。)

「疑問」 3

理由

☐週1で生活するために必要な力を付けてあげられるのか？

☐個別の課題に取り組む時間が少ないと感じる。

☐系統付けが難しく単発授業になってしまう。

「週1で時数を確保(削られたら補填する)」 1 2

理由

△作業や単元に生かすことができる。

△基礎的な学力・知識の低下(補う形で。)

△削った時間は必ず補填する(知識定着のため。)

△4月の段階で年間の時数を確保する(年間のカウントをあらかじめ数えていないから足りなくなる。)

△1時間でも国語や数学は大切だと思う。社会に出たときに役立つ(削らないようにできないか。)

△削られていくことは多いが、なくさない方がよい。

△将来を見据えた教育に充てることができればよい。

△国数の学力をもっと付ける必要がある中で、削らない方向で検討して欲しい。

△実質的な知識の獲得という点に置いて、卒業後を考えると重要だと思う。(削られた分を補えるように組む。)

△削らない対応で(国数は社会に出ても必要。)

△現状では授業内容の工夫で対応している。将来的には時数の確保や家庭学習を行わせる等が考えられる。(前回の授業内容を覚えていない生徒が多い。時間が空くとさらに生徒の数は多くなる。)

△生徒のニーズもあり削らない方がよい。

△週1コマでも生活していく上で必要な学習だと思う。元々少ないの削られると評価しづらい。(コマ数が少ない授業をもっと慎重に扱うべき。)

「時数を増やす」 1 9

理由

○時間数を増やす(1週間に1度しかなく学習の定着を図ることができない。特別日課等でなくなることが多く、授業を行っている意味がなくなってしまう。)

○時数を増やす(学習機会が少ない。)

○時数を増やす(系統的に学習を進められないため。)

○時数を増やす。週2〜1.5時間など(積み重ねがなかなかできない、作業学習などとリンクした内容ができればもっと良い。)

○体力づくりなどの時間を国数に置き換える(定着させられない、実態別の授業形態は継続して行った方がよい。)

- 漢字や計算が苦手な生徒が多いが1時間という限られた時間では、力がなかなか定着しない（作業は減らしたくないので、美術を隔週にし、時間を確保する。）
- 週2回計2時間を確保したい。（週1回で行事等で削られると継続的な学習が困難で力を身につけさせることが難しい。グループ別で行っていても個人差や課題が個々に異なるため一斉授業の困難な場合もある。課題学習として学級ごとに個に応じた課題をさせるのも一つの手かと思う。）
- 時数を増やす、週2程度に（週1だと継続的な指導が難しく、忘れるため積み重ねができない。）
- 他から回せるなら増やした方が良い。
- 週2回に増やす（知識が定着しにくい。）
- 本当に必要ならば時数を増やす。（体力づくりか作業を削るかして。週1時間だと継続性がない。単発的になってしまう。）
- 時数を増やす（作業を減らし国数に充てる。国数を削らない約束事を作る。）
- 1時間というのはやはり少ないように感じる。漢字の読み書きや計算力などもう少し伸ばしてあげたいと思う。
- 数学・国語は作業や卒業後・日常生活等でも大変重要となる科目ですので、できれば十分な学習をさせるのが望ましいと思います。現在在校生のレベルを考えると、国数を優先にした方がメリハリがあってよいと考えます。
- 授業が単発になりやすく、定着がはかられにくい。他の学習との繋がりが見えづらい。（ある程度、教科での指導を増やし、生単を減らす。）
- 学級には「わ」や「は」の使い分けができず、平仮名の書き間違えが多い生徒や時計の読み取り・計算に時間のかかる生徒など、日常的に使われる読み書きを苦手としている生徒が非常に多く存在します。そのため、国語・数学の授業の必要性を感じています。（体力づくりや委員会の時数を減少することや1単位時間を50分に長くする必要があるのかもしれませんが。）
- 時数の増加。国語、数学をせめて週2回ずつ。（指導の継続性を維持できず、単発の内容に限られてしまう。）
- 単発の教科学習が、はたして必要なのか。もしくは、週に2～3回程度あるべき。（系統性が持たせにくい。）
- 必要な教科指導なので、削らないように対応しながら可能であれば時数を増やし週に2時間実施するのがよい。

「記入なし」 17

3

◎良い 10

<理由>

- ・仕事が始まったときにギャップを感じない。
- ・就業にむけて働くために必要なことを繰り返しの学習で身につけられる。
- ・ほぼ毎日あることで働く意識づけができる。
- ・3学年としては現場実習のため少人数での作業が多く、製品製作に授業時数が多く必要のため。

- ・生徒の定着度合いからよい。
- ・ほぼ毎日あるので働く環境を意識させる条件がある。
- ・単調な仕事に慣れさせる。
- ・働く上でのしつけを体に覚えさせるためにはよく、忍耐力や対応力もつく。
- ・集中力等が培われ、就職した後の作業率につながる。
- ・作業に対する姿勢と集中力は高く身についている。

○現状維持、どちらかというとよい 8

<理由>

- ・働く上で必要な力を身につけられる。
- ・他の授業では見られない生徒の様子が見られる。
- ・活動内容と生產品の量は妥当である。
- ・生徒の実態に合わせて継続的に指導をすることができ、就労を見通して仕事を意識させながら取り組める。
- ・「合わせた指導」で身につく力は大きい。
- ・体験的に学ぶことで、生徒が成長している部分が大きい。

△減らしてもよい 7

<理由>

- ・他にまわしたい教科があるのならよい。
- ・現場実習が長い分、1～2コマ削ってもよい。
- ・他領域や教科の時間を増やすなら減らしてもよい。
- ・卒業後に必要な力は作業能力だけではない。
- ・1・2学年は作業学習よりも教科学習や生単などで早い段階で学ぶべきことがある。
- ・他の学習時間を確保してもよい。

×削減 6

<理由>

- ・他の教科の時間が取りにくく現在の生徒の実態にそぐわない。
- ・他の授業時数を増やす際に時数が足りない。
- ・3学期だけ国語や数学の時数を増やす。
- ・生徒に進路を意識づけできるような学習を設定する。

◆回答なし 22

[メリット]

- ・職場的な体験を多くすることで実践力が身につく。
- ・定められている単位時間より多く実施することで作業（仕事）を続ける力がより多くついている。
- ・集中力が養われる。
- ・生徒の働く上での力を伸ばすことができている。
- ・長時間、働く力をつけるという点においてよい。

- ・働く力を養うのに役立っている。
- ・卒後の就労に対する意識向上。

[デメリット]

- ・指導要領の基準よりもはるかに多くの時数で設定しているにもかかわらず残業が多い。 2
- ・働く力以外の力（コミュニケーション力、自己理解など）を学ぶ時間が少ない。
- ・なぜ作業学習を多く取り入れているか明確になっていない。
- ・他の教科指導の希望も出ている。
- ・作業では力を発揮できるがその他の場面になると応用の利かない生徒が増えている。
- ・作業能力の向上だけではなく、各教科の必要性も考えた方がよい。
- ・作業を重視するあまり、他の授業が軽視されることはないのか。

[改善点]

- ・授業自体の見直し。 2
- ・到達度の見直し。
- ・作業学習のあり方を改めて考える。
- ・総合的な学習の時間を効果的に組み入れてみてはどうか。（現場実習など。）
- ・週時程の配分。
- ・各学年とも1日分（2単位時間）を削り、他の教科を割り当てることが可能か検証してみてはどうか。
- ・題材の見直しや計画的な生産といった見直しが必要。（現在の題材・計画のままで削減は生産品の確保が困難。）
- ・他学科は将来選択のための体験として時間を限定して行くとよいかもしれない。（学校祭後など。）
- ・教育課程編成の見直し。
- ・国数の授業を作業と振り替える。

4

◎良い 20

<理由>

- ・2～3日運動しなければ体力が落ちる。
- ・継続的に行うことで体力をつけられる。
- ・毎日続けるという習慣のためによい。
- ・毎日同じ日課を過ごし、少しずつ体力をつけていけるので毎日することはいい。
- ・体力がつき、卒業後にみんな太りはじめるため。
- ・地道にコツコツ継続することがよい。
- ・目標にむけて努力する機会になり体力も確実についていて帯が分かりやすい。
- ・継続による習慣づけ。
- ・毎日記録が残るので具体的な目標を立てやすく生徒のモチベーションを保つことができる。
- ・生徒の取り組み方で特徴が見えてよい。
- ・働くための体力向上。
- ・仕事をしていく中で、健康を第一と考えたときに体育だけではなく毎日少ない時間でも継続して運動をしていることが大事。

- ・目標を意識させ意欲的に取り組ませることができる。
- ・毎日あるからこそ意味がある。
- ・精神面の強さを鍛える、生活リズムの安定も考えると帯であったほうがよい。 2
- ・高校生のメンタルを考えると、体を動かす時間の確保はとても重要。
- ・今養生徒はゲームばかりが多く体力づくりは多いので必要。
- ・体力づくりがあることで、ようやく運動する機会がとれている子が多いので毎日でよい。
- ・健康な体づくりという面で毎日継続することは必要。
- ・入学後、体力づくりにより諦めないことや目標達成のための努力も身につき体力向上のためには必要。
- ・毎日でなくなると運動不足になる生徒が出てくる。

○現状維持 6

<理由>

- ・運動が嫌いな人間には理解できないと思うが、体力がつき、辛さを克服する経験ができる。
人生にとって貴重な体験。(運動面以外の克服経験ができれば運動面にこだわらない。)
- ・体力強化。
- ・就労に重要な体力の向上、自己記録更新等の達成感を得る。

●どちらでも良い 3

<理由>

- ・他の時数次第で決めてよい。
- ・体力づくりのために課題学習や作業がつぶれるということは今までなかったので問題ないが、必要によって他授業に充てても問題ない。
- ・他校の時程を見る限りでは毎日でなくてもよい。

△なんとも言えない 4

<理由>

- ・朝に長距離を走るのは健康的に余りお勧めできないことがある。
- ・精神面の向上など必要だと思うが他に必要な授業もある。
作業を減らすなど他の授業と調整できるのであれば現状のまま、できないのであれば毎日に行わないで他の授業で行う。
- ・健康の保持増進や精神的な発達をしていく上で必要であるが、就労のためにもその他の授業時数を確保する必要がある。
- ・体を動かす習慣をつけるという意味では効果があると思うが、朝の時間帯でなくてもよい(午後や帰りのHR終了後など。)
- ・他の学校でも見られるように、週何時間かは体力づくりの時間を確保しつつ、他の学習を取り入れてもよい。
(マナー講座、コミュニケーションの学習など)

×必要なし 5

<理由>

- ・正直、体力がついているようには思えない。

- ・体力づくりと体育の授業が同日になくていい。
- ・これからの職場が求める人材として体力だけではない一面もあり、固執して帯で取る必要はない。他の教科教育の時間に振り替える。
- ・毎日するのではなく、週 2 回程度は朝から作業や教科などの時間にする。
- ・体力、健康づくりは必要だが、(昔ほど) 体力勝負な進路先は多くないのではないか。
- ・1 日おき、週 3 回や週 4 回などで検討してもよい。

◆回答なし 1 0

[メリット]

- ・体力の向上。 4
- ・自己記録の向上。
- ・体力強化・維持できる。
- ・運動することが日常習慣化し、3 年間で体力や持久力がついている。
- ・体を確実に動かすことができる。
- ・本校の生徒には体力づくりで体力向上、健康増進に努めるのは有意である。
- ・集中力の向上。
- ・体質改善につながっている。
- ・グループ別で行うことは個に応じていてよい。

[デメリット]

- ・目的意識をしっかりと持たずに、ただ単に体を動かす時間になっている。
- ・卒後につながらないケースがある。 2
- ・疲労が週末になると目に見えるように分かる。
- ・3 年生は水曜日作業のように、学年でねらいを明確にし、効果的な配置にすることが必要。
- ・「体育」と「体力づくり」など体育系に多くの時間がとられる。
- ・他の授業が削られる。

[改善点]

- ・指導者への体力づくりに対する明確な目的を確認する必要がある。
- ・時間数が減っても毎日やることが大事。
- ・体力がついたことで、他の活動に自信がつくような機会があるといい。
(体を動かすことが苦ではない、体力がついて体育に参加しやすくなったなど。)
- ・授業プログラムの工夫。
- ・学年で変える(1 学年: 帯、2 学年: 週 4 回、3 学年: 週 3 など) 他の比重を変える必要が出てくる。
2
- ・「記録日」の設定もなくし、「安定して行えるように」指導していくことが必要である。

5

◎よい 1 1

<理由>

- ・企業から PC 操作できた方がいいと聞いたことがあり、携帯電話を含めた情報モラルの勉強の機会に

もあるのではないかな。

- ・PC使用することが多くなってきてネットでのトラブルも多いため。
- ・これからの情報社会を考えると必要な教科ではあるが、いわゆる「情報」の学習のみならず、スマートフォンの使い方も含め、情報処理の観点も大切。
- ・進路学習の1つとして取り組んでもよい。
- ・ワードでの文章入力、文書作成はできた方がよい、余裕があればエクセルも簡単な計算式やグラフ表示などもできたほうがいい。
- ・今後、必要な能力である。
- ・進路希望先によっては必要になってくるので、PC技能を身につけることは大事。
- ・社会の中で情報教育は今後必要だと思う。
- ・最低限の操作方法を身につけられたらよい。(能力に応じて。)
- ・個々の能力を見極めて、能力向上が見込める生徒はPCスキルを身につけてさせてほしい。
- ・舎の様子では、情報の授業で得た知識が舎のPC使用につながっている様子が見られるのでよい。

△なんとも言えない 18

<理由>

- ・国数の勉強にもなるため、HRの時間でたまにやるべきである。
- ・タイピング程度でよい。
- ・事務的な就労は対象者がまれなので考える必要はないが、情報リテラシーの向上を考えれば必要。
- ・大事だと思うが全員に必要なのか、固定してコマをとるのではなく授業の中で積極的に活用する。
- ・どの程度の処理能力なのか、技術を身につけるためにはそれなりの時数が必要、特化したものであれば学科になる。
- ・ネット犯罪等の観点からは必要。
- ・全ての学科に必要なと考えたらそうではないが、LINEやFace Bookとかのモラルは必要。
- ・8台しかないため学年で1コマやるのは難しく、生活家庭科の生徒の実態に合わないのではないかな。
- ・技能としては役立ち、得意な生徒もいるが、進路先としてどのくらいの需要があるのか。
- ・生徒の視野は広がるが、有害かどうかの判断の問題でフィルタリングをしっかりと行う。
- ・メディアリテラシー教育は必要、ただし携帯電話の所持を許可してから。(本校のみが禁止されている。) 事務能力については、個別対応でもよい。
- ・情報活用能力などは大半の生徒に必要なと思うが、PCスキルは必要な生徒に限られている。
- ・授業の中でタイピングやネットの活用方法など情報教育に取り組んでもいいが、生徒の実態に合わせて取り組まなければならないのでクラスによって内容の差が生まれてしまう。
- ・それ相当の力量がある生徒にとって事務的な就職先も適していると思うが、PC能力があるだけなら今養の生徒以外でも就職できる。就職しても状況判断ができない、人間関係を築くことができないなどの点を克服できる方向の力をつけなければならない。
- ・一般就労する生徒にとっては必要なことだが、福祉的就労の生徒(特に生活家庭科の生徒)たちには必要なことではないように感じる。
- ・現状、事務作業を目指せるレベルの生徒が本校にどれだけいるのかによる。
- ・行っても良いと思うが、単発にならず生徒に系統性を持たせることが大切。
- ・必要だと思うが、漢字が読めない生徒に疑問が残る。

- ・ワードやエクセルなどの能力向上はよいと思うが、インターネット等の使い方については注意が必要特にSNSなどに手を出している生徒が増え、職員の知らないところで生徒同士がやりとりしているという実態は避けたい。
- ・PCを使用する方面への就職の要望に応じて個別、クラス単位などで取り入れればよい。

×必要なし 2

<理由>

- ・他の時間を削らなくてはいけない、事務的な就職に就く生徒（就けそうな生徒）はほんの一部でほとんどの生徒はそれほど必要としないのでは。
- ・カリキュラムに入れなくても必要に応じて個別の指導でよい。

◆回答なし 16

[メリット]

- ・情報処理能力を身につけることが大きな力になる。
- ・簡単なPC操作ができることで仕事の幅が広がる。
- ・今後の時代の流れに応じた仕事の力が高まること。
- ・スマホなどを高確率で所有すると思われる機器の扱いを知ることができる。
- ・事務的な就職にも日常生活にも大切。
- ・就労先に限らず、余暇や生活する上で、IT技術や情報リテラシーは必要。

[デメリット]

- ・台数が確保できていない。 5
- ・情報をやることで、どこかの授業数が減らされるのではないか。
- ・PC能力だけではなくネットリテラシーやスマホの使い方、個人情報に対する考え方など教えるべきことはたくさんあるが、本校の教育課程には特に記載なく「実態に応じて」やっている程度
- ・全員は難しいので、必要な生徒を中心にはじめてもよい。
- ・全生徒対象はむずかしいと思われるので個別での指導が必要。
- ・機器が古い。

[改善点]

- ・台数の確保。 4
- ・ハード面の整備や予算との関連。
- ・指導ができるような人材の確保。（研修を行う。） 2
- ・PCへの興味を持たせる。
- ・作業内容として扱い、自分たちの作ったものの売上や集計などをPCで行ってみてもいいのではないかな。
- ・既存と生活科で分ける。
- ・人と関わる力は実際に体を動かしながら、ペア活動等の携帯を工夫した作業で身につける。
- ・PC操作でも報告、質問等のコミュニケーションは意図的に設定した方がよい。
- ・必要であるかもしれない生徒（一般就労）においては、国語で取り組むことでよいのでは。
- ・数学や生単に少しだけPC利用について触れる。 2
- ・生徒の実態に合わせて教材を使いながら段階を踏んで取り組んでいけばよい。

- ・国語の作文を書かせるときにP C使用する、作業学習の中でP C操作を取り入れるなど。
- ・機器には予算が必要で、高等養護学校では就学奨励費にI C T機器購入向けに別途5万円の拡充制度がある。H26入学者からの対応ではあるが、学習に必要であれば各自で購入する方法もある。
- ・二年次後期から就労にむけ、選択科目という形で受講できるとよい。
- ・体力づくりや作業学習の時数を削減した分を充てる。
- ・必要と考えられる生徒、またはそちらの進路を選びたいという生徒のみに絞って放課後学習や宿題等で補う、資格取得の勉強をさせるという集団をとるほかないのではないか。
- ・短時間だけP Cに触れる機会や遊ばせる機会を設けても事務レベルに達せさせるのは難しい。
逆に事務能力がない生徒にP Cを使用する職務への希望や興味を不本意に持たせると進路選択の際に齟齬が発生する可能性がある。
- ・生単や作業の題材・年計を見直して組み込む。
- ・学習内容は保護者や舎とも連携して組み立てる。
- ・要望に応じて改善していけばよい。
- ・実態に応じてモラル等を教えていってはどうか。
- ・古い機器でもできることから取り組むとよい。

6

◎よい 10

<理由>

- ・働くことへの意欲を高めるためにも大切な教科だと思う。
- ・進路については、1年次から意識できるようにしていった方がよい。
- ・「仕事」を意識付けする必要性があるので取り入れた方がいい。
- ・時代の流れに合わせて取り入れる。
- ・働くことへの意識が高くなる。
- ・1学年の取り組みをどの学年も行っていけばよいのでは。
段階を踏んで卒業後の見通しを持たせることで将来のイメージを持たせやすい。
- ・前提実習を終えた生徒を見ていると、就労先での作業と学校での作業を区別しているように見える。
様々なことで結び付きを苦手としている生徒たちであるからこそ、「作業」と「キャリア教育」を併せ指導すると、より生徒の理解も深まっていくのでは。
- ・将来を考える時間として、ネーミングは別にして1つの時間としてとらえてもいい。
- ・職業観、勤労観の学習を1学年から行うことには意味がある。
- ・進路を意識づけする時間はもっとあってもよい。

○現状維持 2

△なんとも言えない 2

<理由>

- ・「職業」という教科を入れて仕事に対する意識を高めるのにあってもよいが、農業科のように天候に左右される場合は毎週とはいかない。

- ・ といった学習をさせるかによる。ネタがなくて他学習と内容が重複したり似通ったりするならばあまり意味がないのではないか。

▽どちらでもよい 2

<理由>

- ・ キャリア学習や進路学習は大切であり、年間計画をしっかりと組み立てて実施してほしいが生単の中でもよい。
- ・ やってもよいが、総合学習で行うと生単で使用する時数が少なくなってしまう。

◆回答なし 24

[メリット]

- ・ 進路学習は重要で、どの時間を使っても行うべきである。
- ・ 通年で職業に関することを指導できることはより「仕事」を意識できる。
- ・ 進路選択のためには必要。
- ・ 働くことや生きることについてより明確に整理できる時間になる。
- ・ 社会生活していく上で意識づけができる。
- ・ 意識づけにおいては必須である。
- ・ 生単のようにある期間に集中的に学ぶのではなく、定期的に取り組むべき内容として「職業」という授業のメリットが大きい。
- ・ 1年の今の取り組みは、生徒に常に「進路」や「生き方」を考えさせていく意識をもたせることができている。

[デメリット]

- ・ 準備が必要。
- ・ 「職業」と言われてもピンとこない。
- (前々任校では「職業」という教科がありましたがキャリア・作業の違いは何なのか分かっているのか疑問。)
- ・ 新篠津は中止を検討している。
- ・ 週1の座学で身につくかは疑問。
- ・ そもそもキャリア教育は特設するものではないのでは、全ての教科において身につけるものではない。
- ・ この頃、離職や挫折が多いと思うので何とかならないのか。
- ・ 作業に取り組みながら働くことを学ぶが、技術と態度を同時に教えるだけではなく、働く人としての知識を教えることに特化した授業は必要。
- ・ 手探りなので2年次どうするかといったことは未定であり、行事や生単との兼ね合いがまだ整理できていない。

[改善点]

- ・ 総合で行うのであれば、生徒が興味をもって自主的に取り組める内容の精査してみてもどうか。
- ・ 進路指導部との連携が必要、学年によって年計を立てるところから始めるのが先決。
- ・ 3年のみ行う形にして、調整していくのも手ではないか。
- ・ キャリアや進路という単独で実施するのであれば、他の授業でのカウント扱いはしないほしい。
- ・ 総合か作業学習から1時間とる。

- ・進路に対する職員の意識改善が必要。
- ・総合学習以外の時間にできればよい。
- ・生徒の実態に合わせながら教材などを工夫する。
- ・作業時間の週1、1時間を「職業」に充てる。
- ・キャリア学習に類する要素を作業学習の時間に扱っている場面は皆無でしょうか。作業時間に役立つ学習「職業」を取り入れるべき。
- ・生単の指導計画と調整が必要、国語や数学と同じように削られる可能性がある。
- ・定期的に校内実習を行い、日頃行っている作業とは異なる作業で生徒の力を確認する。また福祉的就労先（例えばあすなろ学園）の方を講師として招き、「求めている力」などについて実際に作業を行いながら、生徒が見てわかるような形で説明してもらうなどの「生徒参加型のガイダンス」のようなのであれば、生徒により「身につけなければいけない力」が分かるようになるのかと思う。
- ・1年間行ってみて、どのような効果や課題があったかを検証する必要がある。その上で1学年は次年度も継続して行うか、また新1年生や3年生など、他学年も行うかを検討してみたらよい。また4つの能力を指導するにはこの学習ではこのような効果がねらえる、というような学習・意見交換の場を設け、授業改善につなげるのもよいのではないか。
- ・より具体的に一人ひとりの進路にむけた個別学習等を取り入れるのであればさらに有効ではないかと考える。（例えば、あすなろ希望者にはあすなろの現状や状況・必要となるスキルをより詳しくレクチャーするなど。）
- ・計画的・系統的に指導できるよう整理して全学年、もしくは1・2年、もしくは1年のみとかで総合を「キャリア学習」「職業」のようなものとしてやっていけたらよい。作業は働く力、生単は生活する力をつけるとして昔から生徒におろしているのも、総合はその両方から自分の生き方を考える時間にすればよいと思う。ただ頭の中がややこしくならないように何曜日の何時間にするかよく考えた方がいい。（1年の水4Hはあわただしい。）

7

◎よい 1

<理由>

- ・単元配列について、とてもよく考えられている。

○現状維持 1

<理由>

- ・現場実習単元もあるので上手く対応しながら行っている。

◆回答なし 38

[メリット]

- ・今までの資料が残っているのでやりやすい。
- ・生徒の実態に合った内容を行うことができる。
- ・社会的自立に特化した内容で生徒には必要である。
- ・臨機応変に対応することができる。
- ・比較的整備されている。

[デメリット]

- ・生徒の実態に合った内容であるのか。
- ・3年次の社会人としての暮らし方の配列の組み方。
- ・配列、精査は必要。
- ・社会に出たときにオープンになり過ぎないような学習も必要（スマホやネット、男女関係）。
- ・職員の意識で質の優劣があるのでは。
- ・指導内容が確定していないこと。
- ・何を生徒が学んだのかわかりにくいこと。
- ・「卒業後の生活」が卒業間近になり駆け足で通り過ぎるような配列になっているため見直しが必要。
- ・計画的、継続的な学習効果を狙うためにも他の単元内容を見比べ、単元内容の移動や精査が必要。
場合によっては、単元内容を他の教科、学習場面に置き換える必要があるかもしれない。
- ・単元名は決まっていて、内容もだいたい固定しているが、授業を作る人は毎年何をすればいいか困っている。

固定とは言わないが、きちんとした整理や引き継ぎが必要。

- ・男女交際、携帯電話の知識をつけてほしい。

[改善点]

- ・生単部会での検討。（生単担当者での話し合い。） 2
- ・全職での検討事項になる。
- ・キャリアもしくは進路学習を生単から独立するのであれば、生単で再び学習する機会がなくてよい。
- ・生単の研究で行われている単元の指導内容表が完成されると授業の準備がしやすく、学年ごとの個別の手立てなどを考える時間もできる。
- ・校内研修および校外研修への促し。
- ・各教科で必要な内容を定期的に継続的に指導していくのはどうか。
ただし、見学旅行、学校祭などは特別日課で、生単としては単元を組む。
- ・生単は学校行事に限定し、その他の要素は教科等で指導、カウントしてもよい。
- ・「心とからだ」「生活する力（衣食住）」「行事単元」に特化して、あとは総合にまわしてはどうか
また生単とは何かを今一度しっかり押さえた方がよい。

8

○現状維持 1

◆回答なし 2 1

[メリット]

- ・注目されることで今養の位置づけがはっきりする、宣伝チャンスである。
- ・他の学校では徐々に変わっている。
- ・生徒の選択肢が増える。
- ・学科が増えることで様々な作業を経験できる。
- ・新しい学科の創設になるだろうが、福祉、環境関係の新しい内容の学科を増設し、多様な職に適応し

た実践的な指導を行うことができる。

- ・多様な生徒を受け入れる本校であるゆえ、コース制度もあり。
- ・2年になるときに産・農・家を変えるというのもよいかと思う生徒が多い気がする。

[デメリット]

- ・増設する期間、体制の確保。
- ・職員の専門性の強化の必要性。 3
- ・施設。(詰め込みは生徒の精神的余裕をなくす。) 1 1
- ・新設学科の専門者の不在。
- ・進路先の開拓や実習先の開拓など、生徒が増加することで受け入れ先も見つけなくてはいけない
- ・2学年展開の限界がある。
- ・新設する学科との授業内容の棲み分け。
- ・実態多様な生徒が増加しているため学校全体で実態を把握。
- ・色々と変わること、生徒指導部、支援部、実習助手など安定した指導者の体制を保てるのか。
- ・生徒の受け入れ態勢。
- ・校舎(特別教室の狭さなど)、寄宿舎というハード面で問題あり。 5
- ・職員数が増えても期限付きばかりが増えてしまうのではないか。
- ・指導力の向上。
- ・増築・改築など工事になると授業に影響が出る。
- ・ソフトの面の課題。(職員人材、寄宿舎指導員の職員定数。) 2
- ・増員に伴い、職員も増えるため共通理解できるかどうか。
- ・都市部から離れ、交通や公共施設が不十分な場所にある学校なので、規模が大きくなると対応できるのか。
- ・帰省帰舎に伴う交通手段の確保。

[課題]

- ・入学する生徒の実態次第。
- ・教室、教材等が不足。
- ・調整が必要。
- ・増設。 5
- ・各学級の生徒の実態について学年・学校全体で把握できる機会がより必要。
- ・本当に本校が必要とする教科を厳選する必要がある。
- ・就労先と関連のある作業ができる学科になるのであれば生徒のためによい。
- ・就職先に関しては、学科がそのまま結びつくことは現実問題少ない。
学科そのものは今の流行にのる必要はないと考える、大事なのは社会人としてどのように生きていくか、働いていくかであり、現在の学科システムで十分に対応できる。
- ・寄宿舎定員がどうなるのか気になる。
- ・就労先、地域、保護者は、生徒に何を学んでほしいのかを知り、生かす。

[改善]

- ・2校目以降の教員を増やす。
- ・資金面。
- ・H28もどれぐらいのニーズがあるのかを段階を踏んでアンケートや調査をしていく必要がある。

- ・先進的な実践を行っている高等支援学校見学等、研修の実施。
- ・教室の問題は技術室で対応するとして、寄宿舎の受け入れ許容人数、スペースも関係してくる、通学生を多くする、町内に下宿を作るのかなど。
- ・2年になる前に教育相談で変更すると生徒の身になるかと思う。
- ・寄宿舎定員の関係で本校に入れない、または退学するといった問題を起こさないように少し余裕を持たせた定員にできればよりよい。
- ・どんな生徒が増え、どんな教育が必要なのか情報収集しないと考えにくいと道教委に言う・
- ・連絡は必ず行うとともに学舎で行き来し、生徒の様子を見ていく。
- ・函館バスとの調整、協力依頼。

[意見]

- ・どのように考えているのか（校長）、我々が言えることではない。
- ・仮に増えるとしたら木工科が現実的なのでは。

9

○現状維持 4

<理由>

- ・生徒の実態によるが、今はこれ以上の必要性は感じられない。
- ・社理英などを増やすと生単や作業の授業数が減る。
- ・「合わせた指導」を中心とする現状のスタイルのままでよい。
学ぶことが教科で細かく分かれている方が本校に入学する生徒にとっては負担が大きく力が身につけられない。

△どちらとも言えない 4

<理由>

- ・現状通りでもよいが、道徳部分もあってもよい。
- ・最低限の教科のみの実施でよい。
- ・行ってもよいと思うが、単発にならず生徒に系統性を持たせることが大切である。

×必要なし 4

<理由>

- ・現在取り組んでいる課題学習を継続的に取り組める環境を作ることが大切。
- ・特別支援の生徒に対して教科学習に力を入れるメリットが分からない。
- ・生徒の実態を考え、現在同様「社会」「理科」「英語」は必要ない。

×条件付きの必要なし 2

<理由>

- ・生活科はなくてよい。
- ・国数はともかく、社理英の意義がみえてこないため。

◆回答なし 28

[メリット]

- ・教科で教えることで、生徒にとっては何を学ぶか分かりやすい。生単の授業で教えていた内容で、教科等に振り返られるものは振りかえて行う方が生徒にとって明確である。
- ・情報の授業はあった方がいい。
- ・言語面、知識面など社会性を培うためにも教科学習は必要。
- ・卒後に必要な力には、生単・作業に重点を置いた現在のカリキュラムの方が有効的である。

[デメリット]

- ・座学の増加。
- ・理科、社会の内容がほとんど扱われていない、一般的な社会的事象に関心をもたせず、知識もないまま卒業させてよいのか。
- ・専門性の質に課題。
- ・系統立った指導がどこまでできるのか。
- ・MTができる人が少ないと一部の教員に負担が増えるのではないのか。
- ・領域教科をあわせた生単では指導内容において、国語としてはどの力を、数学としてはどの力をなど各教科のどの内容を含めて指導しているのか分かりにくい。
- ・何に重きを置くかによる。
- ・本校の週時程は古いタイプである。色々な教科を学ぶと働く力が備わるのかという疑問が残る。
- ・衣食住、福祉、消費生活、被服、調理など生活に必要なことを学ぶ機会も少ない。
- ・現在の本校時程とはかなりの変更が必要。
- ・教科学習が難しいから「合わせた指導」があり、教科ができる生徒は普通校に行くのではないのか。
- ・教科学習を個に応じつつ一斉授業できる指導者も確保できない。
- ・社理などの知識は生徒の実態によっては、理解が難しい場合が多いのでは。
- ・教科学習にすると卒後に必要な力が薄れる。

[改善点]

- ・検討が必要。
- ・生徒の実態次第。
- ・教科を導入するときの生徒が不利益にならないような対策が必要。
- ・生単の中で取り入れるか、教科の新設。
- ・研修の充実。
- ・確実に3年後、5年後も継続できる計画を立ててから取り組むべきである。
- ・現在取り組んでいる課題学習を継続的に取り組める環境になってから。
- ・各教科学習にし、「心とからだ」は保体、「生活する力」は家庭科など指導内容を細分化しはっきりさせる。もしくは生単ならば、各教科のどの内容を併せて授業を構築しているのかを簡単ではあるが、おさえるようにする。
- ・学校としての方向性。
- ・到達度確認検査は必要になってくる。
- ・産業科・農業科にも「学級生単」があってもよい。各担当が生徒の実態に応じて、授業内容を設定できるので生徒の成長を促す時間が増えてよいと感じる。
- ・情報を新設するか、生活単元学習の時間に組み入れる。(生単も時数ギリギリなので厳しい、また単

発になるのできちんと身につくかも知れない。)生活に必要なことは生単で対応するとしたら本当に必要なかどうか確認→生単だけで対応できるかどうかの判断→内容精選と段階を踏んでいくのでしょうか。

- ・本校生徒の現状に沿った時程であれば問題ない。
- ・社理に関しては、HRで新聞等を使って、天気の見方や社会の動きについて、リアルタイムの情報から生徒に分かりやすく伝えていく。
- ・現在のカリキュラムを基に、卒業後に必要な力を育てるための教科内容を生単へ取り入れる。

10

◎よい 1

<理由>

- ・定着度合いをみることはよい。

△どちらとも言えない 5

<理由>

- ・生徒の実態に応じてあってもよい。
- ・達成度を知るという点では実態に合わせたテストがあってもよい。
- ・生徒や習熟度別グループの実態によっては筆記試験の形ではなくてもよい。
- ・学力検査を実施して、それが何に役立っているのかその情報を得てから考えるのがよいのではないかな。
- ・教科の授業を増やすのであれば必要であるが、現状は必要ない。
- ・結果を見て、意欲を持って次につなげることができるのであれば実施を考えてみてもよいのでは。

×必要なし 15

<理由>

- ・単元によっては実施しているところもある。
- ・週1の本校では、やる意味が感じられない。
- ・落とす試験ではないし、その試験で厳密な到達度ははかれない。
- ・学力だけつけても、社会に順応する力の方が大切である。
- ・国数ではプレテストを実施しているため、ある程度の到達度ははかれることから特別必要ない。
- ・本校に入学している生徒達は、紙の考査ではない実技的な到達度の確認が合っている。
- ・生徒が試験実施を受け止められるのか。
- ・課題学習を継続的に取り組めていないので実際に行っても意味がない。
- ・到達度を測るための方法は試験だけではないと思うが、生徒に対して緊張感をもたすためにはよい。
ただ特別支援学校の生徒の中には、理解しても文章で表現できない、表現しきれない、文章を読みとれないという生徒もいる。それを筆記試験で評価してよいのか。
- ・生徒の到達度を測る必要はあるが、定期試験は知的の特別支援学校には必要ない。
それぞれの担当教諭が生徒に応じた指導内容または教材を設定するために「プレテストを行う」という取り組みでよい。
- ・本校に適さないため。

☆管理職の考えによる 1

◆回答なし 2 3

[メリット]

- ・目標について設定しやすい。
- ・自分の到達度が理解できる。
- ・試験を行うことで授業に緊張感が生まれる。
- ・数値の評価は客観的に判断しやすい。

[デメリット]

- ・実態により考える必要性はある。
- ・何のために行うのか目的がはっきりしない。
- ・評価する際にインフォーマルな評価になる。
- ・何に重きを置くかによる。
- ・試験の目的を明確にし、試験結果を授業にどのように反映していくのか。
- ・教科学習をしっかりと取り入れている学校では有効であるが、本校は週1であり、しかも他の学習等との兼ね合いで削られている状況では有効とは言えない。
- ・国数をグループ別で指導していても個人差が大きいため、各グループ内でも個に応じた指導をしている。
- ・実施してもよいが全く参加出来ない生徒もいるのでは。
- ・評価の基準が統一か個人別かで大きく異なる。

[改善点]

- ・試験を行うことにつながる授業を行うべきである。(回数や内容。)
- ・時間割の見直し。
- ・授業後にミニテストをするなど達成度を確認する必要がある、ただしテスト期間を設けるなどをせず指導者の裁量による。
- ・学校としての方向性。
- ・試験実施するならなおさら教科部会の役割を明確化、機能化する必要がある。
- ・教科学習が万全とは言い切れない本校で学力検査を定期的実施するよりは、学年・教科ごとに区切りがついたところで到達度を測った方が有効。
- ・実施となれば教科学習をもっと取り入れる必要がある。
- ・本校に有効なのか検討する必要がある。

1 1

[課題]

- ・指導内容表があるため、そこを徹底できればよいが、見直しも必要になってくることも考えられる。
- ・どこまでが自立活動か不明確な部分がある。(評価等。) 2
- ・具体的な活動にならない。
- ・自立活動を考え、この時間をスポット的にキャリア学習(進路学習)を各学級の計画で入れてはどうか。

- ・今養のおさえが分からない。 2
- ・基礎基本ばかりやっている時代ではなくなったのでは。
- ・生単や作業のように授業としてあるわけではないため、目標などが意識しづらいのでは。
- ・個別指導のために、自立活動の独立した時間があるとよい。(特に生活家庭科。)
- ・現在の高等養護の実態から考えて曖昧になりがち。
- ・自立活動の時間がないため、実際のところやっていない。
- ・コミュニケーションや人間関係の形成など、多様な課題が見られるが、その場その場での必要に応じた指導にとどまっている。
- ・学習活動全般で明確なおさえがあれば問題ない。
- ・現在、生徒の実態に応じて適切に行われている。
- ・コミュニケーションの部分では進路学習と絡ませながら「自己認知」のような学習活動も必要。
- ・本人、家族に自立活動の意味をもっと説明する必要がある。
- ・自立活動という視点に立った指導をなかなか行えていないのが現実。
- ・本校では生徒一人ひとりの課題解決に概ね取り組んでいる。
- ・指導内容表には「教育活動全体を通して行う」と位置づけられているが、先生方の意識が薄い。
- ・社会経験が少ないため、卒業後に困りそう。(買い物、余暇など。)
- ・本校における自立活動は何に置き換えているのかが分からない。

[改善点]

- ・生活家庭科で週1コマ程度設定し、個別指導できるような時間を設定。
- ・体力づくりの帯で行わないのであれば自立活動の時間を週1回設定するなど。
- ・体力づくりの時間を削るなど、意図的に毎週1～2回「セルフチェック」の時間として、SSTを通してコミュニケーションや人間関係の形成、心理的な安定などの課題について指導する時間を作る
小学校でいえば、通級で行われている内容のイメージ。(自分としては最優先で必要と感じる部分である。)
- ・全体周知を改めて行う。
- ・小平は「自立活動」を1時間実施していますが、教育活動全体の中で指導する形態がよい。
- ・本人、家族に自立活動の目的や意味を伝えるには家族の了承と本人の障害理解と受容が条件となるので、計画的にできるだけ早い段階で(1学年終了時まで)伝える必要がある。
- ・保護者との連携を図りながら、生徒にとっての課題認識を行っていく必要がある。
- ・自立活動のここをどういった場面でどう指導するということを学級・学年で押さえられればよい。
(帯で時間を設ける必要はない。)と考える。
- ・出来るだけのことはしているが、職員数により難しい部分もあるため職員数の確保。

◆回答なし 3 2

1 2

○現状維持 8

<理由>

- ・学年をまたいで学習ができ、交流にもなるため。

- ・生徒の主体的な活動は大切。
- ・LHR、委員会、全校集会の取り扱いでよく、異学年活動はあってもよい。
- ・委員会活動は自治活動へのステップとして必要、民主主義および市民教育の場として必要。
- ・委員会に参加することで、自分も学校活動に携わっているという自覚が持てる。

△なんとも言えない 3

<理由>

- ・毎回、やることを作るのに大変な委員会もある。
- ・委員会活動の時間が多すぎるように感じる。(毎週でなくてもよい。) 2

▽なくともよい 2

<理由>

- ・縦割りの活動があると、先輩・後輩としての活動があるのでよいと思うが、寄宿舎でも教える・教えられることができるのでなくともよい。

◆回答なし 2 2

[メリット]

- ・LHRとしてどのような内容でも対応できるのでよい、委員会も生徒の役割を明確にして責任感もできるのでよい。
- ・委員会は3学年またいだ教育ができる。
- ・自治活動として意味がある。
- ・責任をもって取り組む観点からも必要。
- ・縦割りの活動は学習活動に必要。

[デメリット]

- ・LHRの中に何種類かあって、継続性がない。
- ・委員会によって活動のバラつきがある。
- ・教師のお手伝いみたいな委員会活動になっているところもある。
- ・委員会によっては同じことをするなどマンネリが生まれている。
- ・生徒が主体的に取り組むことができているのか分からない。
- ・50分授業にするなら7校時はいらぬ。
- ・授業時数にカウントされないからやらない学校がある。
- ・7校時を6校時に減らしても舎務会議には影響は出ないのか。
- ・生徒が委員会活動自体をどのように感じているか確認したい。(生徒による学校の自治の意識はあるのか、学校をよくできているかなど。)
- ・活動内容が限られていて、生徒が目標を持って取り組むことができていない。
- ・完全に週1というわけではないが、全校集会やLHRで削られることがない期間等で、週1で行う必要のない委員会もあるのではないかな。
- ・生徒会、委員会は生徒自身に自治を考えさせながら活動させるということがあまりできていないのでは先生方が指示して生徒が動くということが多く、生徒自身にどう動くべきか考えさせていることが少ないのではないかな。

[改善点]

- ・LHRの充実を考え、この時間をスポット的にキャリア学習（進路学習）を各学級の計画で入れてはどうか。
- ・LHRではなくSHRとして行う。
- ・自主的な活動がもっと増えればよい。
- ・生徒の実態に合わせながら生徒の意見や考えを踏まえて取り組んでいったらよい。
- ・無くすと生徒が主体的に活動する場面が少なくなるため、時間割に組み込まれたら組み込んだ方がよい。組み込めないなら無くす
- ・他の学習の時数がクリアされているのなら、水曜日を会議日にする考え方もある。
- ・週時程に組み入れるのではなく、普通校と同様に放課後の実施でもよい。 2
- ・現在の活動内容であれば、隔週に実施して残りの半分の時間を他に振り分けることも必要。
- ・生徒達で学校をよくしていこうという気持ちを確認する上で、委員会活動を奉仕の時間として自由参加にしてみてもどうか。（委員会活動の意味、奉仕活動の意味などの説明をした後で。）
- ・全校集会の実施は賛成。
内容は全校的な課題（携帯電話マナー、集団生活など。）4月の早い段階で行うといい
- ・他の授業に充てるのが妥当である。
- ・委員会は月1回にしてその分を部活動にしてはどうでしょうか。
- ・これまで通り7時間目の扱いとして、委員会がない人は清掃活動等に従事する、委員会で人手不足のところへ手伝う等はどうか。（委員会間で事前打ち合わせが必要になってくるため現実的ではないが。）
- ・部活動以外で縦割活動があると良い。

13

- ・職員間の人間関係も大事であるが授業をする態度や生徒を第一に考えられる学校になってほしい。
- ・部活動のおさえ。（先生方のボランティアでは限界がくる。）
- ・規正をかけていくのは、よいことであるが、卒後の現実社会に出たときにギャップがあり過ぎても困るので難しい問題が山積みである。
- ・与えられたことは行うが、自ら生き生き取り組む姿がもっと見られるようになってほしい。
生徒が自分で試行錯誤して取り組む時間があればよい。
- ・安定した職場環境をつくるために経験のある先生を増やしてほしい。
- ・アンケートの中身から、作業学習を減らして教科学習を取り入れたい意向なのか。
以前、檜山北高校の先生から話を聞いたが、北高の（特別支援に該当するような）生徒が、本校生徒も実習で受け入れてくれている企業に実習に行かせたときに、高等養護学校の生徒の方が働くと言われたことがあるそうです。これは、教科学習中心ではなく、作業学習を取り入れているからこそその結果だと思う。進路が就労に直結しているからこそ作業学習を多く取り入れている本校のカリキュラムでよいと思っている。
- ・多岐にわたる生徒の特性に応じた生徒への支援を行う。
- ・生徒自身の自己有用感が高まるような授業を行う。
- ・社会は厳しく支援は受けられないため、学校でも厳しくびしびしと指導するというのは、学校の必要性があるのかを問われる。それなら中学校卒業後、すぐに社会に出た方がいいのではないか。社会

が厳しいからこそ、せめて社会で困ることが少なくなるように生徒自身が自分自身を助けることができるように手厚く、社会に必要な技術、代替行動を教えていく学校であってほしい。

- ・現状にプラスアルファする形がベターと考える。
- ・職場とGHが整備され今金町に在住希望の生徒が卒業後に安心して生活できるようになってほしい。
- ・高校生の有り余る体力と勢力をもう少し発散させる必要がある。その意味で課外活動（部活、寄宿舎の余暇時間など）の充実が必要。本校の地域性を考えたとき努力を発揮できる場所は数少ないが、卒業後の余暇をつなげる意味でも、大切な取り組みだと考える。しかし、課外活動は先生方の勤務体制にも絡んでくるので難しい問題かもしれない。
- ・今金の生徒は他校の生徒に比べ、素直で一生懸命である。自分もこのような生徒を育てていきたい。
- ・部活動を含め、生徒の余暇活動を充実させる必要がある。卒後、仕事以外の部分で苦しんでいる生徒が多い現状を考え、学校でも学習時間以外での活動を増やすことは出来ない。
- ・本校進学希望者が普通高校への進学を余儀なくされる、または逆に普通高校への進学が望ましい生徒が本校に進学するという現状を解決することが一番の課題である。そのためには本校に進学した場合の教育課程について、卒業後の進路、生徒自身の状況をさまざま加味し、保護者の方と相談した上で慎重に選考を行う必要があると考える。現在も教育相談や学校見学等で上記のことを行っているが、それでも最初に挙げた問題が現れるということは、どこかで何かが不足しているということなので、今後も検討・更新していく必要がある。
- ・マトリックスは教育方針。教育活動がどの方針に沿って行われているかが整理・確認できればよい。キャリア教育は全て新しくするという意味ではない。
- ・会議等があり難しいと思うが、部活動の時間を増やすことはできないのか。生徒も意欲的に取り組むことができるのでは。
- ・やむを得ない事情がないのであれば掃除の時間に間に合うように下校させてほしい。17時から掃除の時間のため5～10分前がよい。
- ・教務の先生方（特に新採用の先生、期限付きの先生、特別支援に初めて携わる先生）の中には、舎の体制や日課を知る意味で、普段の生活の様子をもっと見に来ていただきたい。
- ・生徒や保護者への最前線に立つ担任が、学級のこと重点を置いた仕事ができる組織。

◆回答なし 37

14

- ・部活動を週1回から週2回程度にならないか。（望んでいる生徒も多い。）
- ・大きな変更をいきなり行くと現場が大変混乱するので、少しずつやってほしい。
- ・継続して取り組んでいけるのであれば新たな取り組みをしてもよい。
- ・授業の始・終業時間がわかりにくい。
- ・新設校の新しい学習内容は新鮮に映る。しかし、その卒業生が社会で活躍している例が少なすぎる。今養で取り入れられている作業学習を通して身につけようとしている能力が新設校でのそれと大きく違うのでしょうか。
- ・今年度はキャリア教育の視点から「学校行事」や「教育課程（カリキュラム・週時程表）」の見直しを行っている。しかし、それ以外にもいろいろな検討がなされているようです。取り組みが可能なことから順次取り組んでいければよいです。

- ・教育課程を改善する必要があると理解した。変えるべきもの、変えなくてよいものをしっかりと考え、この議論に参加していきたい。
- ・学習活動の様々な場面で、自分は何を生徒に教えているかという意識を持っていないとこのような話し合いには参加できないと実感した。このような話し合いが自然とできるような職場になるとよい
- ・学科増の話もあるので、早急に変えるのではなく、できそうなことから変えればいいし、変えなくていいものは残すべきである。ただ、何を狙ってその授業があるのか、その授業で何を教えるかについてはマトリックスを見つつ整理したり、共通理解したりする必要がある。
- ・この地域の子ども達の身の丈に合わないことをやっても意味がない。中学までの教育歴を踏まえつつ、本校として身につけさせたい力をはっきりさせて教育課程を組むことが大切である。
それを実現させるためならば、学科転換やコース制（クラス替えや作業種選択制）なども考えられるが、職員側の対応が追いつかないのでは。
- ・時代や流行等よりも、本校へ来る生徒にとって有効なカリキュラムを検討したい。

◆回答なし 45